

アーケードをもつ町屋【佳作】



設計者

鈴木隆介・森友宏

◎設計主旨

既存町家の改修モデル計画。

かつて産業が栄えていたころの津島市の中心地であった本町筋は、人々が道を賑やかに行き交い、商店や茶室を備えていた町家に、多くの人が頻繁に出入し、縁側茶と呼ばれる風習があったほど気軽に人を招いていた。しかし、人々の生活と密接な関係にあった町屋も、産業の衰退より出入りする人は減っていった。

本町筋沿いに現存する町家の多くは、平面が奥行き方向に深いことによる採光、通風などの問題から現在の生活に合わなくなってきたおり、津島の歴史を表す重要なものとして認識されづらく、建て替えや空き家化も進んできている。町家での生活を観察してみると、大きな平面のなかのほとんどは物置としてしか機能しておらず、生活に必要なスペースは延床面積の半分にも満たないような使われ方だった。

また、通り土間を抜けると、道路からでは認識することができなかった開放的な中庭が存在していた。住宅としてのスペースを中庭側の半分に集約する。道路側の半分は吹き抜けの道路側から気軽に入って来ることのできるアーケードのような場所とする。住宅部は、背面は庭、前面はアーケードに挟まれた風通しの良い明るい空間となり、アーケードは子供の遊び場やお祭りのときの屋台広場などコミュニティの起点となる。周辺の人々が日常的に町家を生活の場として使うことができるようにすることで、歴史ある町屋を継承していくきっかけになっていけばと考えている。

◎講評

○難波和彦審査委員長

平入で奥行きが深い町家の広大な内部空間の中で、本町筋に面した部分をアーケードとして開放し、中庭に面した奥の空間をコンパクトな住居にまとめた野心的な案です。かつての見世の空間を街路の一部に開放することによって、連続する屋根付きのアーケードを形成し、道路と住戸の間の土間的な緩衝空間としています。

連続するアーケードの魅力的なプレゼンテーションが目を引きましたが、住居のあり方の提案性が若干弱いために、町家の空間を矮小化させている点が惜しまれます。

○朝岡市郎審査委員

かつて、賑わいのあった本町筋に実在する高齢者の2人が暮らしている町屋がモデルです。道路側はアーケードとして開放的に、奥を住宅として活用し採光、風通しを確保している。

余り開放的ではない既存の町家に斬新な提案で、開放的な空間の活用についてももう少し提案があればさらに高い評価されたと思います。

○浅野聡審査委員

この提案は、本町筋に面する部分の町家をアーケードとして開放することによって、薄暗い私有空間の中に日照と通風を持ち込んで明るく健康的な開放空間へと変質させることが魅力的であり、図面表現も上手でした。

ただし町家を開放するという提案はすでに多くの地域で試みられており、単に開放するだけでは十分に利用されないのが現実であることから、開放したアーケード空間の使い方が示して頂けるとより高い評価になったように思われます。

○生田京子審査委員

街道沿いの空間を大きく開け放ち、「町家アーケード」と称して気軽に人々が立ち寄り憩う空間をつくる提案である。その大らかな空間性は大変魅力的である。町家アーケードの背面に配された住宅部分も中庭につながる心地よい空間とはなっているが、今後の街道を背負っていく新しい住人の流入を目指した空間づくりなどを工夫できると良かったのではないかな。

○清水裕之審査委員

この案は、現代の核家族の住まいとしては広すぎる町屋の、道路に面する前面空間を大胆に開放し、さらに、それらを隣同士結合させることで連続した地域の交流の場としてのアーケード空間を創出することを狙っている。この試みは非常に魅力的である。しかし、住宅に供する部分の2階のテラス空間が全面ポリカーボネイトで覆われるなど、居住空間としての配慮が少し不足している。

プレゼンテーションとしては、最も美しい表現をしていただけたに、2次審査までのさらなるブラッシュアップを期待していたが、予想していたほど、完成度が上がらなかったのが残念であった。

○日比一昭審査委員

本町筋を町家の持つ木造の骨組を活かしながら、アーケードを創り出し、ビジュアル的にも、機能的にも、魅力ある空間を町並みとして演出している。この提案は、本町筋を歩行する人々にとっても、とてもわくわく感があるアイデアであり、実現できたら素晴らしいと考えます。

一度来てみて、時間を過ごしてみたいくなるような空間こそが、歴史ある町家の継承のために必要であり、私としては高く評価したい。